

# 実証した事項と、得られた成果 青果分野 -

## 流通段階

### (1) システムの動作確認と業務仕様の実行確認

- ・ QRコードによるロットの識別と JANコードなど多様なコードをオプション情報の取り込みができた。
- ・ 携帯電話による即時かつ簡易な情報の検索・記録ができた。
- ・ 入荷元・出荷先など基本情報をマスター化し活用することで、処理の効率化を実現できた。

### (2) 事業者にとっての効果

- ・ QRコードを貼付可能な全ての生鮮食品等に適用できる。
- ・ 全国の全ての JA で利用できる。
- ・ 流通履歴を第三者機関(NPO農業ナビゲーション研究所)が一元管理することから信頼性が担保される。
- ・ QRコード、携帯電話、インターネットの組み合わせにより、極めて安価で簡易な運用が可能となり、小規模事業者への普及が期待できる。

## 生産・出荷段階

### (1) システムの動作確認と業務仕様の実行確認

- ・ 農薬に加えて肥料など広範な生産資材の使用計画、使用履歴に基づく事前判定・現場警告が実現できた。
- ・ 携帯電話やOCRなど多様なデバイスに対応した資材判定および自動履歴記帳を実現できた。
- ・ 地図システムとの連動により、ポジティブリスト制度に関連した農薬の使用計画と履歴情報に基づくドリフトの可能性を判定し、かつビジュアルに表示することができた。

### (2) 事業者にとっての効果

- ・ 農業生産資材全般の適正使用が可能になる。
- ・ ポジティブリスト制度に対応したドリフト対策に有効である。
- ・ 生産現場での簡易な利用やシステム初期投資の大幅な抑制など普及性が高い。
- ・ 生産履歴を第三者機関(NPO農業ナビゲーション研究所)が一元管理することから信頼性が担保される。
- ・ 流通トレーサビリティシステムとの連携による確実なチェーントレーサビリティを実現できる。

**生産資材適正使用ナビゲーションシステムと統合された小規模事業者に導入可能なトレーサビリティ・システムの実現！**